

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-211832

(43)Date of publication of application : 31.07.2002

(51)Int.Cl.

B65H 35/07

(21)Application number : 2001-011634

(71)Applicant : KANSAI PAINT CO LTD

(22)Date of filing : 19.01.2001

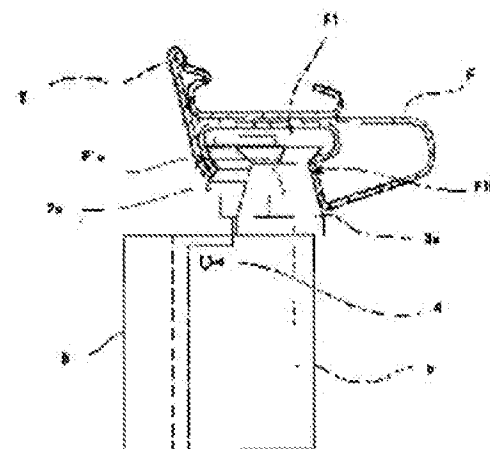
(72)Inventor : SHINOZAKI MITSUHIKO
ANDO SHOJI

(54) TOOL FOR ATTACHING ADHESIVE TAPE OF DOOR SASH FRAME

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a tool for surely attaching an adhesive tape bent to a side of a glass run of a door sash frame of an automobile.

SOLUTION: This tool comprises a first abutting portion 2 and a second abutting portion 3 abutting respectively on opposite groove wall portions F1a, F1b of a recessed groove portion F1 for attaching the glass run mounted on a back side of the door sash frame F; a connecting portion 4 for connecting the first abutting portion 2 and the second abutting portion 3 to the first and second groove wall portions F1a, F1b in such a manner that the abutting portions 2, 3 can approach to or separate from the groove wall portions F1a, F1b; a first holding portion 5 and a second holding portion 6 fixed respectively on the first abutting portion 2 and the second abutting portion 3; and an elastic portion member for energizing a side for pressing the first abutting portion 2 and the second abutting portion 3 to the groove wall portions F1a, F1b.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2002-211832
(P2002-211832A)

(43)公開日 平成14年7月31日(2002.7.31)

(51)Int.Cl.

B 6 5 H 35/07

識別記号

F I

B 6 5 H 35/07

データベース(参考)

D 3 F 0 6 2

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願2001-11634(P2001-11634)

(22)出願日 平成13年1月19日(2001.1.19)

(71)出願人 000001409

関西ペイント株式会社
兵庫県尼崎市神崎町33番1号

(72)発明者 篠崎 光彦

大阪府大阪市中央区道修町4丁目7-6
関西ペイント株式会社内

(72)発明者 安藤 尚司

愛知県豊田市東広瀬玖池 F13

(74)代理人 100063215

弁理士 三枝 英二 (外8名)

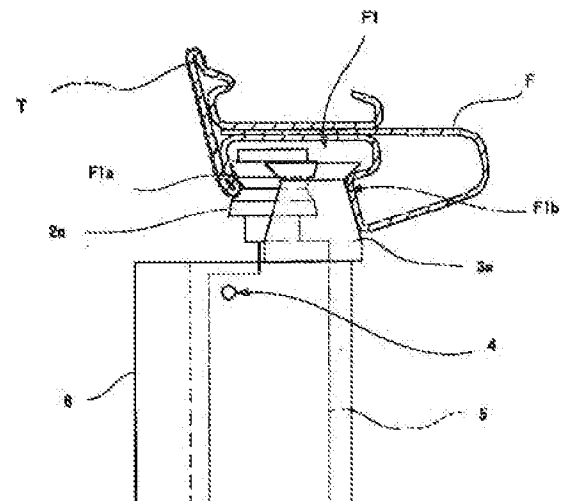
Fターム(参考) 3F062 AA05 AA12 AB05 BA02 BA04
BE02 BE09 BF03 FA25

(54)【発明の名称】 ドアサッシュフレームの粘着性テープ貼付治具

(57)【要約】

【課題】 自動車のドアサッシュフレームドアガラスラン側へ折り込んだ粘着性テープを確実に貼付け得る治具を提供する。

【解決手段】 ドアサッシュフレームFの裏側に設けられたドアガラスラン取付用凹溝部F1の対向する各溝壁部F1a、F1bの各々に当接し得る第1当接部2及び第2当接部3と、第1当接部2と第2当接部3とを溝壁部F1a、F1bに対して接近又は離反可能に連結する連結部4と、第1当接部2及び第2当接部3の各々に固定された第1把持部5及び第2把持部6と、第1当接部2及び第2当接部3を溝壁部F1a、F1bに押圧する側に付勢する弾性部材とを有する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ドアサッシュフレームの裏側に設けられたドアガラスラン取付用凹溝部の対向する各溝壁部の各々に当接し得る第1当接部及び第2当接部と、前記第1当接部と前記第2当接部とを前記溝壁部に対して接近又は離反可能に連結する連結部と、前記第1当接部及び第2当接部の各々に固定された第1把持部及び第2把持部と、前記第1当接部及び第2当接部を前記溝壁部に押圧する側に付勢する弾性部材とを有することを特徴とするドアサッシュフレームの粘着性テープ貼付治具。

【請求項2】 前記第1当接部と第2当接部とは、ヒンジ結合により連結されるとともに、前記第1把持部及び第2把持部は、前記ヒンジ結合の結合ピンを介して前記第1当接部及び第2当接部とは反対側に延設されていることを特徴とする請求項1記載の粘着性テープ貼付治具。

【請求項3】 前記第1当接部及び第2当接部が、前記ドアサッシュフレームの被当接面上を転動可能に支持されたローラにより構成され、粘着性テープを押圧するための前記第1当接部を構成するローラがゴム又はスポンジゴムにより形成されていることを特徴とする請求項1又は2に記載の粘着性テープ貼付治具。

【請求項4】 前記ローラは、前記ドアガラスラン取付用凹溝部の異形断面形状に係合するガイド部を備えることを特徴とする請求項3記載の粘着性テープ貼付治具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、自動車のドアサッシュフレームに粘着性テープを貼付けるための治具に係り、詳しくは、ドアサッシュフレームの表面に貼り付けた粘着性テープの幅方向縁部を、ガラスラン側に折り込み、貼り付けるための粘着性テープ貼付治具に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、自動車の各ピラー及びドアサッシュフレームに、デザイン性により黒塗り等の塗装が実施されるようになり、塗装ではマスキング等の製造工程の増加があり、また、塗装をする際に発生する大気への溶剤飛散等で環境面でも問題があった。

【0003】斯かる問題に鑑みて、近年では、粘着剤を塗布した塩化ビニール製の粘着性テープを貼付ける傾向にある。この粘着性テープは、片面に接着剤層が設けられた支持体と、該支持体に接着された接着剤層上に積層した離型紙とを有し、必要に応じて該支持体上に透明な保護層が積層される。該支持体には、黒その他の色彩が施されている。

【0004】このような粘着性テープTは、図4に示すように、ドアサッシュフレームの表面に図示しない治具を用いて貼付けられる。粘着性テープTはドアサッシュフレーム1の幅より太幅に形成されており、ドアサッシュフレーム1の両幅方向にはみ出している。そのはみ出

した部分をドアサッシュフレーム1の裏側、即ちドアガラスラン取付用凹溝部（図3参照）の側に折り込み、粘着させることで外観を良くしていた。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、粘着性テープTの前記はみ出し部分は、作業者が指でドアガラスラン側へ折り込み、貼付けるだけであったため、以下のような問題があった。

【0006】前記はみ出し部分の貼付け不足が生じると、窓ガラスの開閉を繰り返すうちに、折り込まれて粘着されていた部分が、たくれることがあり、この「たくれ」が生じると、雨水の浸入等で膨れが生じたり、剥がれ出すことがあった。

【0007】そこで、本発明は、上記従来の問題を解決するため、前記はみ出し部分の粘着を確実になし得る治具を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明の上記目的は、ドアサッシュフレームの裏側に設けられたドアガラスラン取付用凹溝部の対向する各溝壁部の各々に当接し得る第1当接部及び第2当接部と、前記第1当接部と前記第2当接部とを前記溝壁部に対して接近又は離反可能に連結する連結部と、前記第1当接部及び第2当接部の各々に固定された第1把持部及び第2把持部と、前記第1当接部及び第2当接部を前記溝壁部に押圧する側に付勢する弾性部材とを有することを特徴とするドアサッシュフレームの粘着性テープ貼付治具によって達成される。

【0009】前記第1当接部と第2当接部とは、ヒンジ結合により連結されるとともに、前記第1把持部及び第2把持部は、前記ヒンジ結合の結合ピンを介して前記第1当接部及び第2当接部とは反対側に延設されていることが好ましい。

【0010】前記第1当接部及び第2当接部が、前記ドアサッシュフレームの被当接面上を転動可能に支持されたローラにより構成され、粘着性テープを押圧するための前記第1当接部を構成するローラがゴム又はスポンジゴムにより形成されていることが好ましい。

【0011】前記ローラは、前記ドアガラスラン取付用凹溝部の異形断面形状に係合するガイド部を備えることが好ましい。

【0012】

【発明の実施の形態】本発明の好ましい実施形態について以下に図面を参照して説明する。図1は、本発明実施形態の粘着性テープ貼付治具を背面側上方より見た斜視図、図2は、図1の粘着性テープ貼付治具を正面側上方より見た斜視図、図3は、粘着性テープ貼付治具をドアサッシュフレームに取り付けた状態を示す側面図である。

【0013】本発明に係る粘着性テープ貼付治具1は、ドアサッシュフレームFの裏側に設けられたドアガラス

ラン取付用凹溝部F1(図3)の対向する各溝壁部の各々に当接し得る第1当接部2及び第1当接部3と、第1当接部2と第1当接部3とを溝壁部F1a、F1bに対して接近又は離反可能に連結する連結部4と、第1当接部2及び第1当接部3の各々に連結固定された第1把持部5及び第2把持部6と、前記第1当接部2と第1当接部3の各々を溝壁部F1a、F1bに押圧する側に付勢する弾性部材7と、を有する。

【0014】第1当接部2と第1当接部3とを連結する連結部4は、図示のような結合ピン4aを介したヒンジ結合による連結とすることができ、結合ピン4aには捻りバネでなる弾性部材7が依装され、そのバネ力によって第1当接部2と第2当接部3とを溝壁部F1a、F1bに押圧する側に弾性付勢している。第1当接部2と第1当接部3との連結は、ヒンジ結合に限らず、該両部を互いに接近又は離反可能に連結すればよく、例えば、該両部を貫通して支持する軸(図示せず)により該両部を連結する等しても良い。弾性部材7は、捻りバネの他、ゴム、コイルバネ、板バネ等とすることもできる。

【0015】第1把持部5及び第2把持部6は、結合ピン4aを介して第1当接部2及び第1当接部3とは反対側に延設されている。従って、作業者が両把持部5、6を把持し(摘み)、弾性部材7の弾性力に抗して両把持部5、6を接近させれば、第1当接部2及び第1当接部3が溝壁部F1a、F1bから離反する。

【0016】第1当接部2及び第1当接部3は、ドアサッシュフレームFの溝壁部F1a、F1bの壁面上を転動可能に支持されたローラ2a、3aにより構成されている。粘着性テープTを押圧するための第1当接部2を構成するローラ2aは、ゴムで形成されている。ローラ2aは、スポンジゴムで形成することもできるが、スポンジゴムは柔らかくドアサッシュフレームFに装着した場合の安定性に欠ける場合があるため、溝壁部F1aに当接し得るガイドローラ(図示せず)を別個に設けることが好ましい。ローラ3aは、粘着性テープTを押圧しないため、硬質のプラスチック等で形成することができる。

【0017】第2当接部3を構成するローラ3aは、図示の例では、第1当接部2を構成する1つのローラ2aを挟むようにして両側に1対設けられている。第1当接部2及び第1当接部3を構成するローラ2a、3aの直径がドアガラスラン取付用凹溝部F1の溝幅に比べて十分小さい場合は、その幅方向(即ち、該凹溝の長さ方向に垂直な方向に)に2個のローラ2a、3aを並べることも可能である。また、ローラの個数も任意である。

【0018】第1当接部2の構成するローラ2aは、凹溝部F1を構成する溝壁部F1aの異形断面形状に合わせて、その胴部に括れ部2a1が形成されている。括れ部2a1を形成している上部傾斜面は、溝壁部F1aの傾斜に沿う傾斜を有し、粘着性テープを溝壁部F1aに対

して均一に押圧し得る。また、第1当接部3を構成するローラ3aも同様に、その胴部に括れ部3a1が形成されている。括れ部2a1、3a1を形成することにより、図3に示すように、第1当接部2及び第1当接部3を構成するローラ2a、3aが、凹溝部F1a、F1bから抜け落ちないようにドアサッシュフレームFに係合して治具1を自己保持させるとともに、ガイド部(案内)としても機能する。

【0019】上記のような構成を有する粘着性テープ貼付治具1の操作方法について以下に説明する。

【0020】粘着性テープ貼付治具1を適用する前に、従来の技術で説明したように、ドアサッシュフレームの表面に貼付けられた粘着性テープTのはみ出し部分を指でドアガラスラン側へ折り曲げて粘着させる(図3参照)。

【0021】そうしておいて、粘着性テープ貼付治具1の第1把持部5及び第2把持部6を把持し、両把持部5、6を弾性部材7の弾性力に抗して接近させ、第1当接部2と第1当接部3との拡開幅を狭め、第1当接部2及び第1当接部3をドアガラスラン取付用凹溝部F1に挿入し、把持部5、6の把持力を緩めて弾性部材7の弾性力を開放し、第1当接部2及び第2当接部3を前記凹溝部F1の溝壁部F1a、F1bに当接させる。このとき、第1当接部2及び第2当接部3を構成するローラ2a、3aの括れ部2a1、3a1を、前記凹溝部F1に係合させる。

【0022】この状態で、把持部5、6を把持して粘着性テープ貼付治具1をドアサッシュフレームFに沿って走行させれば、予め指でドアガラスラン側に粘着された粘着性テープTの折り返し部分を、一定の力で均等に押圧し、確実な貼付けを得ることができ、粘着性テープTのたくれを防止することができる。

【0023】

【発明の効果】以上の説明から明らかなように、本発明に係るドアサッシュフレームの粘着性テープ貼付治具によれば、第1当接部が、弾性部材の弾性力により一定の押圧力の下に粘着性テープを押圧する構成であるので、ドアサッシュフレームのガラスラン側へ確実に粘着させることができ、粘着不足の発生を防止し得る。

【0024】また、第1当接部と第2当接部とをヒンジ結合を用いて連結し、その結合ピンを介して前記当接部と反対側に把持部を設ける構成とすることにより、扱いやすく、ドアサッシュフレームへの治具の適用が容易となる。

【0025】更に、第1当接部にローラを採用することでドアサッシュフレームの傷付きを防止し、また、該ローラをゴム又はスポンジゴムにより形成することで、該ローラが弾性変形することによりドアガラスラン取付用凹溝部の異形断面に追従し得る。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明に係る粘着性テープ貼付治具の一実施形態を背面上方より見た斜視図である。

【図2】 図1の粘着性テープ貼付治具を正面上方より見た斜視図である。

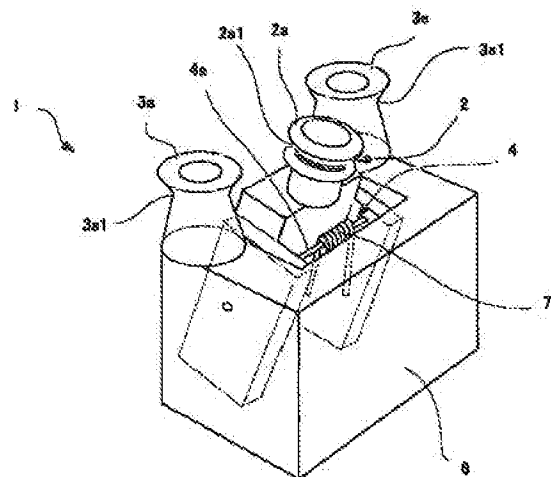
【図3】 図1の粘着性テープ貼付治具の使用状態を示す側面図である。

【図4】 粘着性テープをドアサッシュフレームの表面に貼り付ける状態を示す正面図である。

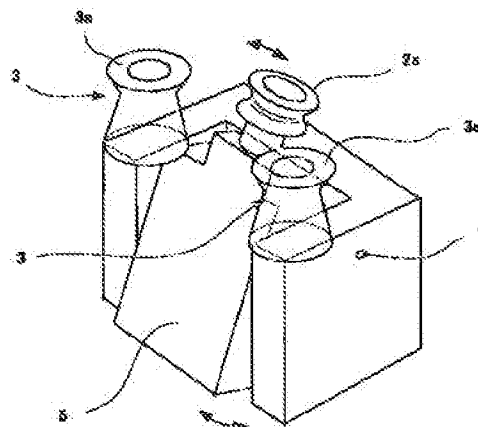
【符号の説明】

- 1 粘着性テープ貼付治具
- 2 第1当接部
- 2a1 括れ部（ガイド部）
- 3 第2当接部
- 4 連結部
- 5 第1把持部
- 6 第2把持部
- F ドアサッシュフレーム
- F1 ドアガラスラン取付用凹溝部

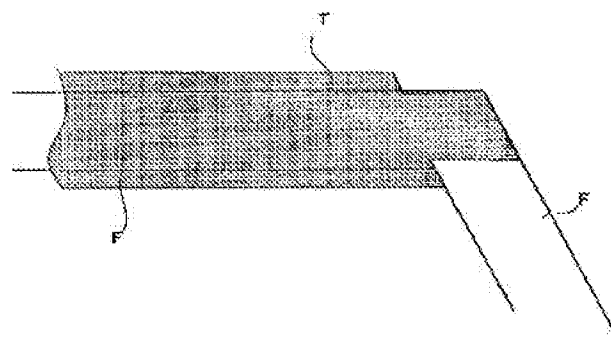
【図1】



【図2】



【図4】



【図3】

